

定 期 作 況 報 告

平成25年7月
(7月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温、最低気温および平均気温ともに平年よりやや高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比60%）。日照時間は平年より多かった（平年比142%）。

7月上旬：最高気温、最低気温はともに平年並で、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より少なかった（平年比19%）。日照時間は平年並であった（平年比86%）。

7月中旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年よりやや高く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比13%）。日照時間は平年より多かった（平年比143%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温はやや高く、降水量は少なく、日照時間はやや多かった。

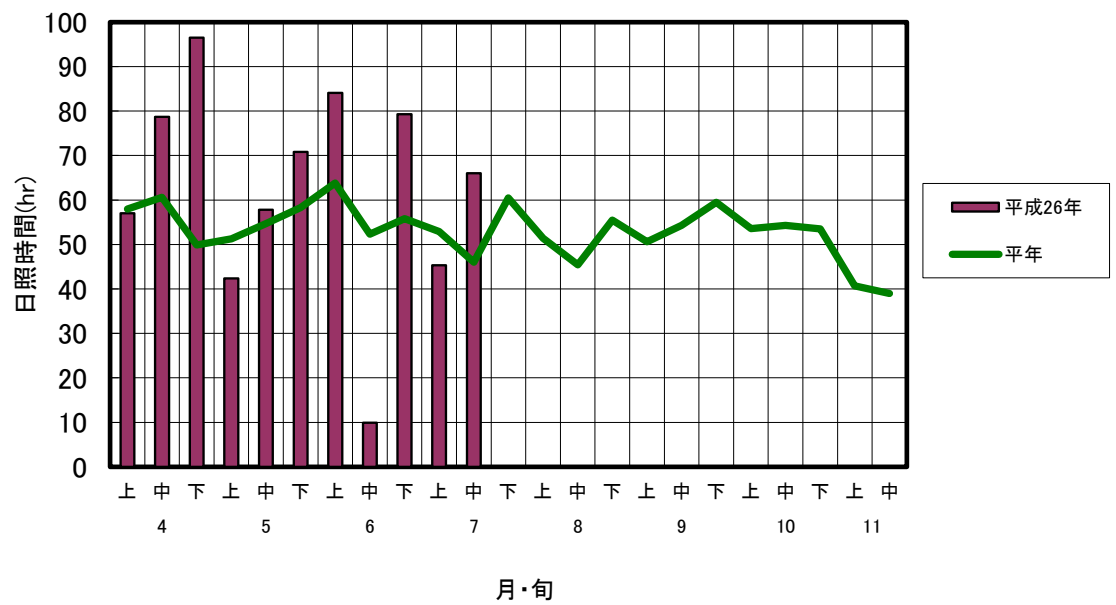
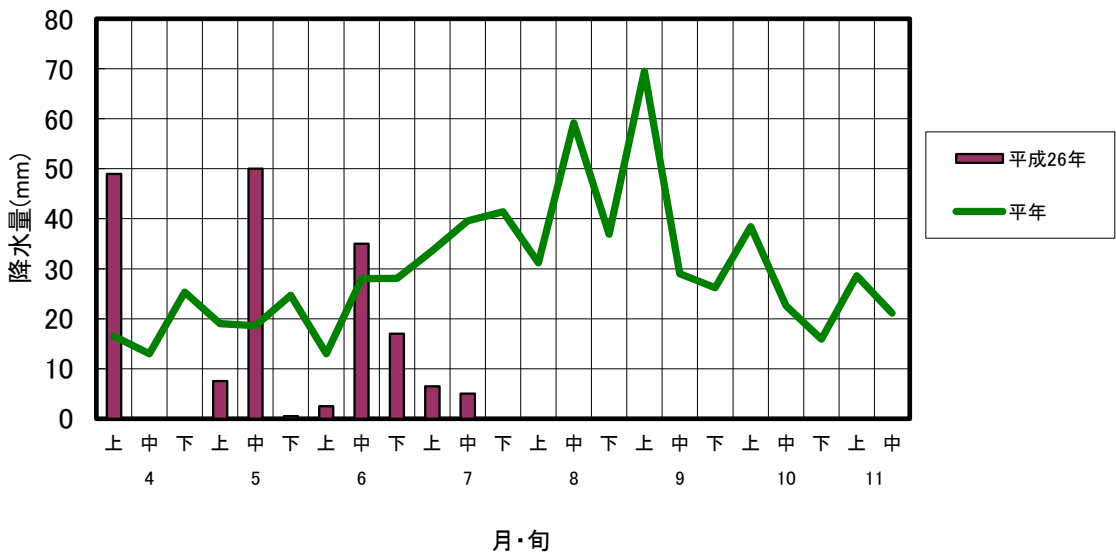
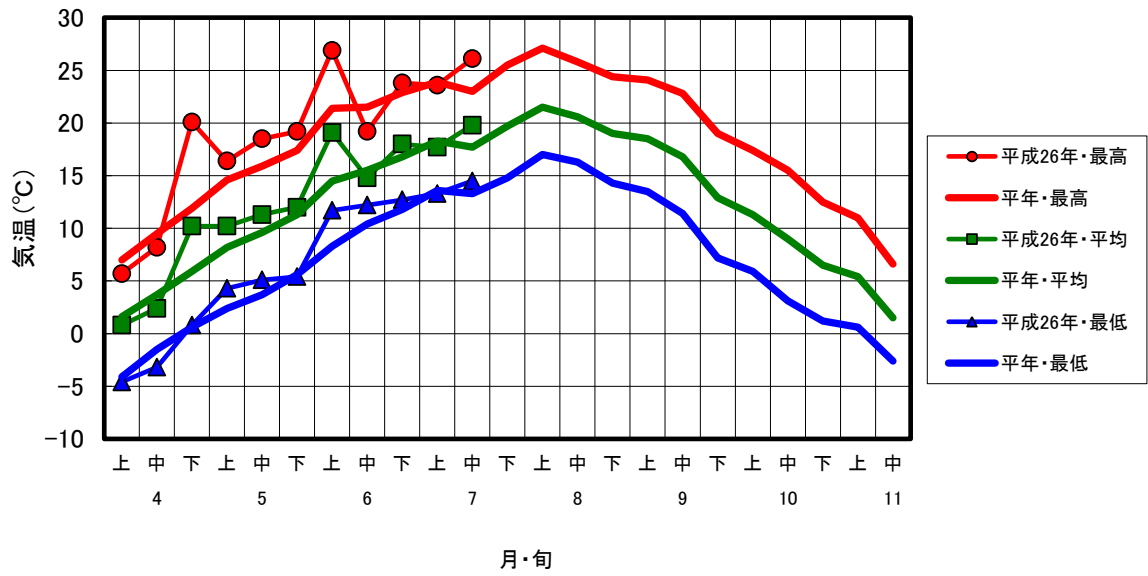
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	18.0	16.8	1.2	23.8	22.9	0.9	12.7	11.8	0.9
7月上旬	17.7	18.3	△0.6	23.6	23.9	△0.3	13.3	13.6	△0.3
7月中旬	19.8	17.7	2.1	26.1	23.0	3.1	14.5	13.3	1.2

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	17.0	28.1	△11.1	79.3	55.8	23.5
7月上旬	6.5	33.6	△27.1	45.3	52.9	△ 7.6
7月中旬	5.0	39.6	△34.6	66.0	46.0	20.0

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである（準正常値を含む）。

平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作 況：やや不良

事 由：6月下旬～7月中旬の気温は平年よりやや高く、日照時間はやや長かったため、登熟は進んでいる。倒伏は未発生である。稈長は平年より短く、穂長は平年並で、穂数は平年より少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	79	87	△8
穂長(cm) (7月20日)	8.5	8.8	△0.3
穂数(本/m ²) (7月20日)	631	736	△105

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、25年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作 況：平年並

事 由：出穂期以降、気温は平年よりやや高く推移し、降水量は少なかった。稈長は平年より長く、穂長は平年並で、穂数は平年よりやや少ない。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	101	92	9	95	92	3
穂長(cm) (7月20日)	8.1	8.3	△0.2	7.6	7.5	0.1
穂数(本/m ²) (7月20日)	515	552	△37	545	569	△24

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや良

事 由 : 6月下旬と7月中旬の気温が平年より高く推移し、日照時間も多かったことから、草丈は平年を上回り、葉数は平年よりやや多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	221.3	166.5	54.8
葉数(枚) (7月20日)	13.0	12.2	0.8

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況 : 良

事 由 : 6月下旬以降、やや高温に経過したため生育は進み、開花始は平年より3日早い7月16日であった。主茎長、本葉数、分枝数は、いずれも平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.16	7.19	△3
主茎長(cm) (7月20日)	74.3	50.4	23.9
本葉数(枚) (7月20日)	9.2	6.9	2.3
分枝数(本/株) (7月20日)	6.8	3.9	2.9

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：良

事由：6月下旬以降、やや高温に経過したため生育は進み、開花始は「サホロシヨウズ」で平年より8日早い7月16日、「エリモシヨウズ」で6日早い7月20日であった。主茎長、本葉数、分枝数は、いずれも平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.16	7.24	△8	7.20	7.26	△6
主茎長(cm) (7月20日)	39.5	19.7	19.8	32.6	18.7	13.9
本葉数(枚) (7月20日)	8.5	6.4	2.1	8.6	6.4	2.2
分枝数(本/株) (7月20日)	4.8	2.5	2.3	5.0	2.4	2.6

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：良

事由：6月下旬以降、やや高温に経過したため生育は進み、開花始は平年より1日早い7月7日であった。本葉数はほぼ平年並であるが、草丈、分枝数は平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.7	7.8	△1
草丈(cm) (7月20日)	61.6	42.9	18.7
本葉数(枚) (7月20日)	3.5	3.1	0.4
分枝数(本/株) (7月20日)	7.5	4.4	3.1

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：やや良

事 由：この1か月間は平年と比較して、気温がやや高く、降水量が少なかった。このため、開花始は平年より「男爵薯」で4日、「コナフブキ」で5日早かった。茎長は「男爵薯」でほぼ平年並、「コナフブキ」では平年をやや下回ったが、茎数は両品種とも平年より多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	6.27	7.1	△ 4	6.27	7.2	△ 5
茎長(cm) (7月20日)	47	49	△ 2	60	70	△10
茎数(本/株) (7月20日)	4.5	3.6	0.9	3.7	3.4	0.3

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：良

事 由：この一か月間は、気温が平年並からやや高く、断続的に降水があり、日照時間がやや多かった。このため、前報に引き続いて生育は順調に進み、茎葉重以外の全ての項目で平年を上回っている。特に根重は、平年よりかなり重い。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	59.0	57.4	1.6	56.0	54.3	1.7	54.9	53.0	1.9
生葉数(枚) (7月20日)	23.6	21.8	1.8	23.0	20.8	2.2	17.9	16.6	1.3
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	647	690	△43	629	661	△32	480	484	△4
根重 (g/個体) (7月20日)	404	259	145	420	276	144	233	142	91
根周(cm) (7月20日)	24.7	21.1	3.6	25.7	22.7	3.0	21.7	18.3	3.4

注1) 注平年値は前7か年中、平成21年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前4か年の平均。

9) 牧草(チモシー) 作況:不良

事由:6月下旬~7月中旬の降水量が平年より少なかったため、1番草刈取り後の生育は緩慢で、欠株の発生は認められなかったものの、再生時の草丈は平年より10cm低かった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
被度(%) 2番草再生時(7/14)	100	100	0
草丈(cm) 2番草再生時(7/14)	29	39	△10

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

10) たまねぎ 作況:やや良

事由:6月下旬以降、降水量は少なめに推移したものの、生育は概ね順調であった。球肥大期は、「改良オホーツク1号」では平年より4日早く、「スーパー北もみじ」では9日早かった。両品種ともに、草丈、生葉数、葉鞘径は平年並であるが、球生重は平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期(月.日)	7.3	7.7	△4	7.14	7.23	△9
草丈(cm)(7月20日)	76.8	77.8	△1.0	82.3	81.4	0.9
生葉数(枚)(7月20日)	8.8	9.1	△0.3	9.5	10.1	△0.6
葉鞘径(mm)(7月20日)	20.3	20.6	△0.3	20.6	21.0	△0.4
葉身生重(g)(7月20日)	109.6	130.0	△20.4	142.0	135.2	6.8
球生重(g)(7月20日)	137.2	117.6	19.6	122.6	53.7	68.9

注) 平年値は前8か年中、平成19年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、25年(最凶)を除く5か年の平均。